

30人以下学級の実現めざして全力



30人以下の学級編成は、全国で粘り強くすすめられ、東京と香川を除いて大きな流れとなっています。

党市議団は2003年に犬山市に30人以下の教育を調査し、また、父母・教職員のみなさんの要望をもとに議会質問を積極的におこなってきました。

04年9月議会では「東京都に少人数学級の実施を求める意見書」を党市議団は提案し、賛成多数で採択されました。

三鷹市の教育委員会は、「生活集団・学習集団として40人が適当」と、東京都と同じ立場をとっ

ています。全国の運動を受けて文部科学省は2005年10月、「今後の学級編成及び教職員配置について

(最終報告)」をまとめ、「市町村教育委員会の権限と責任を強め、それぞれの判断で、学級編成の見直しができる」法改正を準備しています。また、小学校1年生などの低学年には、「少人数学級が新たな課題である」として、特別に言及しています。30人以下の学級編成を求めてきた運動に光が見えてきています。実現めざして全力で取り組みます。

避難場所—学校の耐震化すすむ

党市議団では、03年8月宮城県被災地の学校を視察し、学校施設の耐震化の一刻も早い全校実施を提起しました。市議会だけでなく政府交渉も行い、財政的支援、耐震化工事等に対する補助制度の充実も働きかけてきました。三鷹市は、学校耐震化を重要課題の一つにし、全校耐震化補強工事完了計画に結びつきました。小中学校耐震化100%実施まで全力をあげます。

通学路の安全対策は重要

三鷹市は04年11月に、17の小学校区ごとの「地域安全マップ」をつくり、通学路の安全対策に取り組んでいます。

通学路と生活道路の安全対策に街路灯の照度アップも欠かせません。市内の街路灯の70%が暗い20W型なので32W型、42W型の明るい街灯へ交換していくことを議会でとりあげ、多くの場所で改善されました。

障がい児学級や学童保育所の増設・改善めざして

知的障がいの学級などがマンモス化していてゆきとどいた教育が出来ない状況です。また、マンション増加での学童保育所不足や不便な場所も指摘されてきました。党議員団は質問・要望を繰り返し、障がい児学級増設や学童保育の増設、学校内への移転など実現しました。

市民の要求がいかされた「絵本館」に

党市議団は、市の構想が発表された後、04年5月「三鷹市の絵本館構想」についての意見書を市長に提出し、05年6月議会で市民要求と絵本館のあり方について質問しました。

この質問にもとづき、公募の市民代表や地域文庫の方も入った「絵本館構想検討会議」が設けられ審議がおこなわれています。

党市議団は、05年10月、北海道・「絵本の里」剣淵町を訪問し、絵本館づくりに取り組んできた町民の運動と町の応援を学んできました。

三鷹市の絵本館構想は、「館(箱物)づくり」から入るのではなく、子どもたちと市民にとっての絵本館にするために、みなさんの声をいかしたとりくみが必要と考えます。



小中一貫教育校づくりに生徒の参加を

2年間の検討を経て、2006年度からの開設に向け、05年10月に実施方策(案)がだされました。党議員団は①保護者・市民、児童・生徒の要望・意見に真摯に向き合うこと。②時間をかけて、十分な議論をおこなうこと。③2005年度実施はやめること。④小・中一貫教育より、30人以下の学級をすすめることが大切である。4点を指摘し議会審議をおこなってきました。

三鷹の小・中一貫教育の運営方式に、「コミュニティ・スクール」、学校運営協議会制度が導入されますが、欧米では当たり前の「生徒代表」の参加が認められていません。06年度開設が三鷹の小・中一貫教育の新しい議論の出発点と言えます。これからも大いに議論をしていきます